

令和五年度 卒業証書授与式 式辞

雪をいただいた山々に春の明るい光が降り注ぐ美しい風景に囲まれ、凜とした空気、まさに「卒業の日」にふさわしい朝となりました。本日、ご来賓や保護者の皆様のご臨席のもと、百四十八年の歴史と伝統を誇る杉原谷小学校の卒業証書授与式を挙行できますことを、本当に嬉しく思います。

杉原谷小学校を巣立つ二十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの旅立ちを心からお祝い申し上げます。

今、皆さんが仲間とともに力を合わせて作り上げた卒業証書を一人一人に手渡しましたが、受け取る皆さんの姿は、希望にあふれ堂々としていてとても立派でした。この卒業証書は、小学校六年間をたゆまぬ努力で見事にやり遂げたという証です。そして、これまで皆さんを温かく見守り励ましてくださったご家族の深い愛情、地域の方々の支え、先生達の熱心な教えの結晶であることも忘れずに、心に刻んでほしいと思います。

今、卒業の日を迎え、みなさんの心の中には、六年間のたくさんの思い出が次々とよみがえってきていることでしょう。毎日の教室での授業、友だちと仲良く遊んだ休み時間、そして、各学年での社会見学や体験学習、自然学校や修学旅行、一つ一つの思い出がみなさんにとっては大切な宝物ですね。

なかでも、「笑顔いっぱい 全力演技 一致団結 杉小魂!!」のスローガンの下、全校生が力を合わせ全力で取り組んだ「運動会」。自分の演技だけではなく、進行役としても率先してきびきびと動く六年生の姿に、最上級生としての自覚と意気込みを感じたものでした。

また、奈良・京都への一泊二日の修学旅行も忘れられない思い出ですね。実際にその目で見た奈良の大仏の大きさ、見事な美しさの金閣寺、清水寺から眺めた京都の町並み、様々な風景が今もまぶたの裏に浮かんできます。その場所でしかできない学びを深めるとともに、仲間とのかけがえのない思い出がたくさん心に刻み込まれたことでしょう。

本校ならではの卒業証書づくりは、最も思い出深いものの一つでしょう。紙漉の全工程を体験する活動は、地味で根気のいる作業が続きましたが、皆さんは、市原の老人会の方々との楮刈りを皮切りに、寒風の中や凍てつく杉原川での作業を辛抱強く行い、校章の透かしが入った杉原紙を漉きあげました。厳しい寒さに晒すなどしてより質の高い和紙を求めた先人の苦勞と喜び、そして知恵を学んだ皆さんは、きっと、この証書に「杉小六年間の思い出」と、「粘り強く頑張る心」、「ふるさとを誇りに思う心」を漉き込んでくれたのではないかと思います。今皆さんの手元にある卒業証書は杉小卒業の証であるとともに、皆さんの心の拠り所にもなる証書ではないかと思います。世界に一つだけの卒業証書です。大切にしまっておいてください。

四月からは中学生です。中学校では小学校より一歩進んだ学習や活動が待っています。

す。そして、中学三年生になる令和八年度からは、統合した新しい中学校、多可中学校で学びを深めていくことになります。加美中学校への入学、そして統合での新たな仲間や先生方との出会いを大切にし、これからの人生に本当に必要なものを、自分で掴み取ってほしいと願います。どうか、いろんなことに挑戦して、自分が好きで打ち込めること、そして、夢や希望を探し出してほしいと思います。個性豊かな皆さんです。自分を信じ、いろいろなことに挑戦してあなたにふさわしい世界に一つだけの花をいつかきっと咲かせてください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、まことにおめでとうございます。生まれてから、今日まで、本当に多くの喜びや様々なご苦勞があったことでしょう。それら一つ一つを振り返ると、よりいっそう今日のお子様の晴れ姿が感慨深く、喜びもひとしおのことと存じます。

これまで、杉原谷小学校をともにつくっていただき本当にありがとうございました。コロナ禍でさまざまな制限があるなかで、ご理解とご協力をいただきましたことにも感謝申し上げます。

これからお子様は、人生のなかでももっとも多感な時期に入ります。楽しいことも多い反面、悩むことも多いかと存じます。お子様の力を信じてお子様の自律を応援し、温かく見守ってくださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、本日ご臨席を賜りました教育長職務代理者 安藤和志様をはじめご来賓の皆様には、ご多用の中お越しいいただき、卒業式に花を添えていただいておりますこと、誠にありがとうございます。卒業生が、このように成長いたしましたのも、町行政、並びに地域の皆様による支援あってこそと深く感謝いたしております。今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

小学校生活を締めくくるこの一年間、みなさんが六年生として、落ち着いた姿で学校生活を送り、いろいろな場面で、下級生が憧れるよいお手本を見せてくれました。そして、一人一人が自分の姿でこの杉原谷小学校を引っ張ってきてくれました。一年前にみなさんが受け継いだバトンは、見事に今日、後輩達に受け継がれるのです。安心して未来に向かって進んでいって下さい。

卒業生の皆さん、名残は尽きませんが、お別れのときが来ました。最後に、書道家で詩人でもあります相田みつをさんの二つの言葉を贈ります。

「つまずいたって いいじゃないか にんげんだもの」
そして、

「しあわせは いつも 自分のこころがきめる」

皆さんの歩む道に幸多きことをお祈りし、お別れの言葉といたします。

令和6年3月21日

多可町立杉原谷小学校長 萩野 学